

事業所における自己評価結果

公表日： 令和3年 1月 27日

教室名：児童デイサービスひまわりきっず

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・物・器具などの配置を工夫し、活動できる範囲を広げている。 ・利用人数の多い時は利用児童をグループ分けして活動している。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		・基準人数より多い人数を配置している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		・利用児童の分かりやすい絵やカードを張って見える化をしている。 ・トイレに手すりが少ないため、手すりを配置し、トイレ支援を充実させる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・毎日掃除機をかけた後に、次亜塩素酸水で消毒を行っている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		・毎日、送迎後に反省会を行っている。 ・休みの職員への伝達が不十分なことがあるのでノート等を活用して伝達を行う。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		・保護者からの評価表を職員全員が確認し、話し合いを行っている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		・評価表公開後に、きっずノートでお知らせをしている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・社会福祉協議会の研修などに参加をしている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・支援計画作成後、他の職員に内容を確認し、内容に問題やわかりにくいところがないかをみている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		・統一したアセスメントシートを使用している。
	11 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		・「発達支援」を中心に支援計画を作成している。支援内容は家族の希望を尊重している。 ・「家族支援」の部分が弱いため、今後ペアトレーニングや面談などに力を入れていきます。
	12 個別支援計画に沿った支援が行われているか	○		・支援計画を全職員が見やすいように整理している。
	13 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・色々な職種の職員でチームを作っている。
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・同じ器具を使った運動療育でもやり方や声掛けなどを変更し、固定化しないようにしている。
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	○		・集団療育が主だが、必要に応じて個別療育も行っている。
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・朝の会時に今日の予定や役割分担などを確認している。
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・送迎後に反省会を行い、出席できていない職員用に連絡ノートを作っている。
18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・個人個人の記録を取り、個別に保管することにより振り返りをしやすいようにしている。。	

19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	・年間予定で個人面談や参観週間などを行い、家族の希望などを確認している。
----	--	---	--------------------------------------

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	・相談支援事業を利用している児童が少ないため、会議には、児童発達支援管理責任者が出席している。
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	・現在行えていないが、将来的に家族の希望を取り入れながら行っていきたい。
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○	・現在行えていないが、将来的に家族の希望を取り入れながら行っていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○	・医師の指示書を頂き、それを基に情報共有を行えるようにしている。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	・通っている保育園などとの連携は家族の希望があれば行っているが、移行支援は行っていないので将来的に家族の希望を取り入れながら検討していきたい。
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	・現在行えていないが、将来的に家族の希望を取り入れながら検討していきたい。
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	・現在行えていないが、将来的に家族の希望を取り入れながら検討していきたい。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	・送迎時などに利用時の様子を伝え、連絡ノートなどで課題などを伝えやすいようにしている。
保護者への説明責任等	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	○	・外部のペアトレの広報は行っているが、事業所では行えていない。今後、保護者同士の話し合いの場などを作りながらペアトレに繋げていきたい。
	29	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	・契約時に専門用語の説明をしながらわかりやすく説明を行っている。
	30	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	・保護者の希望を取り入れた個別支援計画を作成して説明を行い、同意を得るようにしている。
	31	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	・連絡ノートやきつずノートを活用し、相談しやすい環境を作っている。
	32	保護者同士の連携を支援しているか	○	・保護者同士の連携を行えていないが、今後保護者同士の話し合いの場などを通して行っていきたい。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	・相談・苦情に対する窓口を設置し、苦情担当などを決めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	・きつずノートを活用して定期的に情報発信をしている。
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	・個人情報の取扱いに関する研修を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	・専門用語を使用しないでわかりやすく説明するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	・現在行えていないが、将来的に家族の希望を取り入れながら決めていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	・各マニュアルを作成中で完成後きつずノートなどを通して家族に通知していく予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	・火事や地震などに関する避難訓練を定期的に行っている。
	40	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○	・アセスメントシートを活用して確認を行っている。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	・アレルギーに関しては、把握しているが医師の指示書をもらうまでは行っていない。家族の希望を聞きながら検討していきたい。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	・ヒヤリハットの記録はとってあるが、事例集という形ではないので今後職員の共有方法を検討していきたい。
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	・虐待の防止に関する研修は随時行っている。また、職員が相談しやすい環境を作れるようにしている。
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	・個別支援計画書に身体拘束を行う場合には、記述し保護者に同意を得るようにしている。